

会派視察・研修報告書

会派名 日本共産党

代表者名 三輪寿子

1 日 に ち	令和7年10月9日（木）9時30分～16時30分
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名：全国都市問題会議 主催者：全国市長会 会場：ライトキューブ宇都宮
3 参 加 者	三輪寿子
4 調査・研修の テーマ	成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～
5 主な内容	<p>①基調講演：京都大学名誉教授 広井良典氏 「人口減少・成熟社会のデザイン」</p> <p>日本の総人口は人口減少のターニングポイント 2008年の1億2,808万人をピークに2050年には1億人を下回ると予測されるが、危機と同時に新しい豊かな発想、対策が求められる。</p> <p>●東京荒川区 GAH グロス荒川ハピネス「幸せはローカルから挑戦！」 60市町村の取り組み「ポジティブな価値」地域のないものからあるモノ探し。若い世代の一極集中からのローカル思考の現れ、地元大学進学率50%は過去最高である。時間軸から空間軸・成熟社会へ移行。</p> <p>●ドイツの地方都市人口10万人のエアランゲンでは地域に根づいた活気・賑わいがあり、子どもから高齢者までくつろげる「コミュニティー空間」となっている。（環境、福祉、経済の相乗効果を生む。）</p> <p>●2019年日本では「居心地がよく歩きたくなる街中づくり」若者の企業支援、「一坪開業スペース」など中心市街地の新たな発想を取り入れる時代を向えている。</p> <p>●今後の課題 AI を活用した未来を探ること。歩行者中心の「コミュニティー空間」を重視した姿が求められる。</p> <p>②主報告：栃木県宇都宮市長 佐藤栄一氏 「100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成</p> <p>●地域拠点の向上に向けた取り組み→基幹公共交通・宇都宮駅東側「ライトライン」は全国初の全線新設次世代型路面電車で、低床式であり、停留所との段差のない電車で、地域新電力会社が供給する家庭ごみ焼却によるバイオマス発電など再生エネルギーのみで走る。令和7年8月時点予測より半年早く1千万人到達し、1日当たりの利用者は当初予測の1.2倍～1.3倍の1万7,000人～1万9,000人となった。</p> <p>沿線上の人口は平成24年度から令和6年度までで約10%、5,600人</p>

	<p>増加。住宅地の地価は約 14%上昇し、沿線に位置する工業団地では、ライトライン開業後に公表された投資額が 1,100 億円超える。</p> <p>また、ライトライン開業前と比較し、沿線内では 40 歳以上の 1 日当たりの平均歩数が 207 歩増加し、約 16～18 億円の医療費抑制効果を推計している。このほか、沿線住民の外出増加による外食、娯楽、交流機会の増加、ライフスタイルの変化もライトライン整備の効果として挙げられる。</p> <p>JR 駅西側への延伸、県教育会館付近まで約 5 キロメートル整備は「整備区間」として、整備の準備を進めている。また、大谷観光地付近までの約 3 キロメートルを「検討区間」とし調査・検討を進めている。</p> <p>公共交通ネットワーク構築のため、バス路線を再編し、地域内交通運行に取り組み、公共交通間の連携強化として、公共交通の利便性を高めるため独自サービス IC カード「トトラ」を導入し、市内でのバス 1 乗車当たりの運賃の上限が 400 円となる「バスの上限運賃制度」を導入した。また、市内どこから中心市街地に来ても 500 円という「乗継割引制度」も導入している。</p> <p>③一般報告：「縮絨」発想による公共施設マネジメント 東洋大学 PPP 研究所 南学氏</p> <p>●人口が減少しても、機能は充実する。公共施設の老朽化・更新時期を迎え、縦割りから公共・民間施設をトータル「地域施設」として相互利用できる「共用協定」を結ぶ事で、固定費削減を図るなど成熟社会を迎える年の在り方の検討に値する。</p>
<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>①多治見市がちょうど 10 万人都市なので、ドイツの都市中心の自動車規制など「歩いて楽しめる街」が実現出来たら素晴らしいと思う。その為には公共交通・楽しめる移動の足確保が必要不可欠である。</p> <p>②どこの自治体も人口減少から人口増への取り組みに公共交通政策がカギとなっている。大都市ならではの投資による実践例であり、未来都市の夢が期待できるが、実現するには国の交通政策・整備費用など本格的な国庫補助の増額が求められると思う。</p> <p>③官民共同の取り組み包括委託では安全確保が第 1 ということが強調された。老朽化した市民プールでの児童死亡事故・悲惨な事故を繰り返さない為にも、綿密な老朽化対策・整備が求められると痛感した。</p>
<p>7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	

※視察先、研修先ごとに 1 枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。

会派視察・研修報告書

会派名 日本共産党

代表者名 三輪寿子

1 日 ち	令和7年10月10日(金) 9時30分～11時50分
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名：全国都市問題会議 主催者：全国市長会 会場：ライトキューブ宇都宮
3 参 加 者	三輪寿子
4 調査・研修の テーマ	パネルディスカッション：まちなかの「パブリック・ライフ」の再考 コーディネーター：埼玉大学大学院教授 内田奈芳美氏
5 主な内容	<p>●成熟社会におけるコンパクトな都市を考える上で 内田奈芳美氏</p> <p>1960年代～1970年代の移動について、バス停が多かった。現在、運賃収入のみでは赤字。官民連携をどうするか？自治体が補填し、委託化で社会資本を二人三脚で維持、継続が必要。移動は早く遠くに運ぶからゆっくり楽しむ豊かな時間を共有する。通勤以外に循環バスの楽しさが求められる。拠点の街中を歩いて楽しむ。楽しい空間演出（路上古着市・くつろぎ空間演出の為の植栽・テラスなど）が求められる。</p> <p>●成熟社会における公共交通ネットワークの進化と持続可能性への挑戦</p> <p>(株)みちのりホールディングス代表取締役グループ CEO (兼) 関東自動車(株) 代表取締役社長 吉田元氏</p> <p>地域の生活拠点と公共交通を一体化整備し、誰もが安心して移動できる環境を目指す。自家用車依存からの転換、二酸化炭素排出ゼロ「ゼロカーボンシティ」の宣言。市内在住小学生～高校生まで地域連携 ICカード「ととら」の無償配布・ライトラインとバス乗り継ぎ学生を対象に定期券3割補助。上限運賃・乗り継ぎ割引・「大谷観光1日乗車券等利用者負担軽減で、官民連携で外出促進、健康寿命延伸が期待される。市長いわく、「ピンピンひところり」を目指す。長野県はピンピンころり。</p> <p>●「いくつになっても」「出かけていけ」「出かけたたい」都市について 思案する。</p> <p>まちなか広場研究所主宰 山下裕子</p> <p>「レジャー白書24」では前年比13.4%増、71兆2140億円増、自治</p>

	<p>体も週休3日制がスタートし、余暇が増える一方で、2040年には3人に1人が高齢で約4割が単身世帯・個の時代を迎える。健康寿命人生100年時代に備え、子どもから高齢者まで参加できるイベント等（朝市・屋台村など）を定期的を開催し、定着が求められる。</p>
<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>「成熟社会の都市のかたち」というまちのあり様についてディスカッションがなされた。ほとんどのパネリストの方々の年齢が、真ん中世代（中堅）で、未来思考が強く、楽しいまちづくりについて話題が集中した。特に印象に残ったのは、宇都宮市長の「ピンピンひとコロリ」というメッセージに象徴されるように、長野県の「ピンピンコロリ」から、一呼吸おいてのさらに人としての尊厳「あー生きていてよかった」と幕を閉じることが理想だと、なかなかユニークな発想に共感した。</p>

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。